



## 北浦中学校『よのなか教室』 ～ワールドワイドに活躍されている建築家に学ぶ～

北浦中学校の3年生(22人)は、総合的な学習の時間を活用して、自分の将来の生き方について学習に取り組んでいます。2学期は、働き方や雇用について学習しています。

10月30日(金)のテーマは、「つくること “やりがい”のつくり方」でした。

講師の山根俊輔さんは、延岡駅前複合施設エンクロスを設計された建築家です。

エンクロスを設計した時の実際の図面や3Dを用いた完成予想図などを用いて、つくるということの意味を分かりやすく説明されました。「どのくらいの時間をかけたのか」「どうやって決断したのか」「結果はどうだったのか」などのお話をもとに、生徒たちは、視点をもって取り組むことの大切さを学びました。



講師の山根俊輔さん

現在はアパレルブランド・ブランディング・企画運営の会社「山根製作所」を経営されており、東京と延岡の二拠点で活動されている。



## 延岡商業高校 桜マーケットに向けた「よのなか教室」

延岡商業高校では、12月6日(日)に実施された「桜マーケット」に向けて全学年で取り組みました。◎10月21日(水)は、全学年を対象に、コロナ禍でポジティブに生きる大人の姿を見てもらいました。

講師は、上田耕市さん(風の菓子 虎彦 社長)

コロナ禍の中で、需要激減に直面した中で「移動店舗」に初めて取組まれ多くのお客様に喜ばれます。

そして「郷土に尽くす菓子作りとは何か」を考え、お店の事業展開を工夫し変更されていきます。「商いは笑って勝ちなり」と商いの心を語る上田さんのお話により、生徒達も真剣な表情で聞いていました。

◎10月22日(木)は、2年生(183名)を対象に、「延岡市の予算と主要事業」について学びました。

講師は、日高 寛さん(延岡市企画課 課長)

延岡市の人口や産業、自然等について問いかけられ、延岡市の抱えている課題や主要事業について、プレゼンを用いて分かりやすく説明していただきました。日高さんの講話を聞き、生徒たちは、延岡市の現状をよく理解し、延岡市のよさについて考える良い機会となりました。

◎10月28日(水)は、3年生(178名)を対象に、「おもてなしの大切さ」を学びました。

講師は、佐野吾郎さん(エンシティホテル 営業部 次長)

「おもてなし」の大切さについて、ご自身の経験をもとに講話をしてくださいました。講話の最後には、立ち姿の姿勢の演習があり、生徒たちは、正しい姿勢の基本を学んでいました。「おもてなし」とは「相手の気持ちを考え、その気持ちに応えた時の自分の気持ちを考えること」が大事ですと話されました。



【日高 寛さん】



【佐野吾郎さん】



【上田耕市さん】

## ～キャリア教育実践交流会～

今月の実践交流会は、延岡小学校の島先生に、実践発表をしていただきます。

～1月21日(木)19:00～社会教育センター～

多数のご参加、お待ちしております。



## 「キャリア教育の視点」で「子ども達の夢の実現」を

東海東小学校 校長 川上 哲郎



現在の社会は、AI等の発達により、今後大きな職業の変化が到来すると言われています。子ども達は、この変化する時代の中で、10年後、20年後には社会を担う人材となっていきます。本校の教育課程をキャリア教育の視点から見ると、日常生活の中で社会生活を送る基盤となる資質を育てたり、各教科等で町探検や栽培活動、工場見学などを行ったりして、社会を構成する様々な仕事にも気付かせています。これらの活動が、将来自立した社会人となる基盤作りになることを、こちらからも意識していきたいと思えます。子ども達は「夢や可能性」を無限に持っています。「将来こんな職業につきたい」「こんな生き方がしたい」という目標をもち、自分らしい生き方に近づける子ども達を育てたいものです。そのためには、私たちが「キャリア教育の視点」をもった教育を行うことが、子ども達の持つ夢の実現に導く一つの手助けになると思えます。

## 機が熟す瞬間のために

岡富小学校 校長 柳田 光一郎

私の実家は自動車修理工場で、小学校の頃は、休みの日にブレーキランプの点検等の手伝いをしながら、将来は父親の後を継ごうかなと漠然と考えていました。しかし、中学校を卒業する頃は、「なりたい職業はまだ無い。しかし、多くの経験をしたい。」と卒業文集に綴った記憶があります。

私の決定的な進路選択は高校3年生の時でした。体育科のラグビーの授業中、先生が、真っ白いジャージーが汚れることも気にせず、何度もタックルの手本を見せてくださいました。その時の感動が教員の道を選ぶ大きな決め手となりました。

キャリア発達において、自分の進む道を決定する時（機が熟す瞬間）があるように思います。それは、何気ない日常で繰り返される学習体験の中で、温め育まれていくとともに、時には、感動体験によって一気に方向付けされるように感じています。

その瞬間が確かなものになるように、学校と地域が一緒になって仕掛けることを楽しみたいです。



## 仲間と協働する力

南中学校 校長 二宮 正志



昼休みの校庭で、元気いっぱい遊ぶ生徒の姿を微笑ましく見守ることが毎日の日課になっています。子どもたちは仲間とルールを決めて遊びを工夫し笑顔いっぱい楽しめます。

コロナ禍で職場体験学習や講師を招聘してのよのなか教室もできない状況ですが、生徒たちは、学習においても仲間と工夫しながら「自分事」として学びを深めています。その様子を見ていると、この状況だからこそ、キャリア教育のベースとなる「仲間と協働する力」を培うことがとても大切なんじゃないかと実感しています。

解決の糸口を探して、みんなで知恵を出し合い立ち向かうこと、コロナ禍を体験したからこそ、これからの時代を担う大切な人材として育ててくれると期待しています。一日一日の日常を精一杯楽しむこと。子どもたちを見ているとその大切さが伝わってきます。